

藝術 科目 音樂 I

单位数： 2 单位

1 組 ~ 4 組

(2組:木下) (3組:木下) (4組:木下) (組:) (組:)

【 Tutti+（トゥッティプラス） 】

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配当 時数
			絵・ 影	デ 映	鑑 賞					
1 学 期	【知識及び技能】 ・日本の伝統工芸品を知り木の持つ可塑性と可能性を広げる	【指導事項】 ・木の持つ性質 ・安全かつ正しい道具の扱い方 ・実用性のあるデザインの工夫 ・独創的な立体物の形成 ・木の特徴を生かした加工の仕方	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	5
	【思考力、判断力、表現力等】 ・木の種類を知り曲線美を追求しオリジナリティー溢れる表現の追求をする	・物の組み立て方と物理的な計画性 ・工具の種類	○	○		・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	8
	【学びに向かう力、人間性等】 ・完成させるための計画性や工程工夫・粘り強さ等を養う ・日本の伝統工芸を心豊かに愛する情操と心を育てる。	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・寄木木材 ・ワークシート ・木工用ボンド ・紙やすり ・棒やすり	○	○		・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	10
		・電動糸鋸 ・新聞紙 ・Cクランプ ・木工バイス ・刷毛 ・木工用ニス	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	3
2 学 期	【知識及び技能】 ・日本と世界の油彩画の歴史と多様な作品を知り技法を学ぶ	【指導事項】 ・水彩と油彩の違いについて ・油彩の特徴 ・道具の使用方法和片付け方法 ・油彩の技法の可能性 ・油彩の歴史	○		○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・点描画の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の経過と完成度等 総合的な評価	○	○	○	22
	【思考力、判断力、表現力等】 ・油彩画の材料と使用方法についての習得									
	【学びに向かう力、人間性等】 ・様々な技法の種類と扱い方の習得による独創性の確立	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・油絵具セット ・キャンバス ・イーゼル ・新聞紙 ・モチーフ	○		○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・点描画の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の経過と完成度等 総合的な評価	○	○	○	6
3 学 期	【知識及び技能】 ・明度の違いで立体が表現できる事を知り、実践で技能を習得する	【指導事項】 ・光と影について ・明暗と濃淡の表現方法について ・構図の工夫 ・ペンの種類での適材適所の置き分け	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・明暗・濃淡表現の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	12
	【思考力、判断力、表現力等】 ・点の集合で明度が変化する事を利用した素材の厳選									
	【学びに向かう力、人間性等】 ・根気よく諦めずに完成させ達成感を味わう ・計画性を持ち継続する力を養う	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・画用紙 ・4B鉛筆 ・ボールペン(細・中・太) ・マグネット	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・明暗・濃淡表現の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等 総合的な評価	○	○	○	4 合 計 70

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

科目：書道Ⅰ

单位数： 2 单位

使用教科書：（書Ⅰ 光村図書）

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【字ひに向かう力、人間性等】い、豊かな情操を培う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書之美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	育 教 生 展
			漢	漢	仮						
1 学 期	・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	書道で学習すること・書写から書道へ	○	○	○	○	書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。	○	○	○	2
	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもつ	漢字の変遷と様々な書体		○		○	漢字には五つの書体があることを理解する。それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する	○	○	○	4
	楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。臨書作品の制作	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑。		○		○	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 構成を考えながら臨書作品の創作ができる。	○	○	○	10
		牛嶺造像記 卷末折込龍門二十品 典の臨書	古		○	○		○	○	○	8
2 学 期	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 仮名遣字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。	文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 卷末折込「蘭亭序」 【コラム】印でわかる古典の真偽 争坐位文稿 風信帖		○		○	行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。仮名の線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	○	○	○	20
		三筆・三跡の書名の成立と種類	仮		○	○		○	○	○	8
3 学 期	仮名の字源の理解と古典に基づいた用筆を理解する	文字の造形を学ぶ仮名 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬萊切		○		○	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。 ②書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④戯作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう		○		○	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きた表現について構想し工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
				○		○		○	○	○	70